



神さまの守りの中で
のびのび育つ子どもたち



宗教法人日本キリスト教団片瀬教会付属
片瀬のぞみ幼稚園
Katase Nozomi Kindergarten

片瀬のぞみだより

2017年7月号

家庭通信 2017 No. 10

7月主題聖句

「天よ、喜び祝え、地よ、喜び踊れ」

詩編 96 編 11 節

牧師（設置者）磯部理一郎

4月の入園また進級から、もう7月を迎え、あっという間に3ヶ月が経ちました。こどもたちにとって、3ヶ月という時間はどんな意味を持つのでしょうか。多くの保育所で利用される「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」という検査指標があります。運動（移動・手）社会性（基本的習慣・対人関係）言語（発語・言語理解）の各分野で、0歳から4歳9ヶ月までの成長過程を、1ヶ月から数ヶ月単位で表記した分析的検査表です。たとえば、3歳8ヶ月のこどもでは、「片足で数歩飛ぶ、紙を直線にそって切る、入浴時に自分で体を洗う、母親に断って友達の家遊びに行く、両親の姓名・住所を言う、用途によるものの指示」などがその行動指標として挙げられています。ところが、その僅か2ヶ月後の4歳0ヶ月になりますと、運動領域では「片足で数歩飛ぶ」から「ブランコを立ち乗りしてこぐ」に、社会性では「ジャンケンで勝負を決める」に、また言語領域では「4数詞の復唱、数の概念がわかる」までに成長発達してゆきます。ただ、こうした発達指標を画一的に用いてしまうことは注意すべきですが、一定の参考指標となる点で、多くの市町村で発達の分析に用いられていることも、否めない事実です。

こうして見てみますと、こどもたちの成長にとって、3ヶ月という時間は、驚くほど大きな意味を持つ時間であることが分かります。昨日のマリアちゃんは今日のマリアちゃんではないのです。かつて就学指導委員や発達相談室の仕事で、福岡県や和歌山県の幼児施設を回り、1000名近くの発達検査をしたことがありま

した。その検査の中に「こころの理論」という検査を加えて実施したところ、4歳児と5歳児とではその検査結果が明確に分かれたことに驚かされました。「こころの理論」とは、自分の気持ちや客観的事実を認識できていることに加えて、〈他者の視点に立ってその気持ちを予測できるか〉を測ります。4歳まではなかなか他者の視点に立って考えることは難しいようですが、不思議なことに、5歳を過ぎ年長組になると、殆どの児が相手の立場に立ってその思いや気持ちを予測できるようになるのです。保育に大切なのは、ひとりひとりの園児の成長を日々しっかりと捉えて、適切な成長の手助けがなされることです。こども自身の中に、神さまが備えてくださった「伸びる力」が宿っています。その「伸びる力」を阻害せずに、十二分に引き出してゆく介助が求められます。幼児教育のダイナミズムはその「伸びる力」をしっかりと見つめるところにあると言えます。

今月の保育主題となる聖句は、旧約聖書の詩編96篇のみことばで「天よ、喜び祝え、地よ、喜び踊れ」が示されています。「喜び祝え」とありますが、実は残念ながら、実際は喜べない悲しい現実を前に、詠まれ歌われた詩（讚美歌）です。この詩人にとって、現実には「喜び踊る」現実ではなかったのです。国破れて山河あり、という言葉がありますが、まさに国破れ、荒廃し尽くした街が眼前に広がるばかりでした。しかし詩人の心の目には、国民がこぞって喜び祝い、喜び踊る光景が見えていたのです。国民どころか広がる山河をはるかに超えて、天地までも共に喜び踊る、まことに力あふれる光景が見えていました。

園庭の鉄棒で幾度となく逆上がりを繰り返す女の児がいました。いくらやってもできないのです。顔を曇らせながら、自ら鼓舞して何度も挑戦するのですが、うまくゆきません。結局、その日はできなかったのではないのでしょうか。数日後、また何人かの女の児が鉄棒にぶら下がっていました。何かいつもと違う、と思いながら、様子を見てみると、鉄棒を掴み、くるくと逆上がりをやってのけていました。絶望ではなかったのです。天も地も、喜び踊るように、鉄棒を掴み、くるくと回って見せてくれました。こどもたちには皆、「伸びる力」が内在しています。保育者はその伸びる力にそっと寄り添い、必要な時にほんの僅かな手助けをするだけで、あとは、こども自らが喜び踊り出すように伸びていきます。大切なのは、まだ外側の目には見えない成長をしっかりと心の目で見つめてあげることです。

キリスト教には「終末論」という考え方があります。まだ終末（終わりの日）ではないのに、終末を先取りして、その終わりを見つめながら今を生きる、という考え方です。大切なのは、「終末（エスカトン）」は、単に「終わり」だけでなく、「完成」や「目的」を意味します。言わば「まだ実現していないこと」なのに「すでに完成したこと」として、「いまだ」と「すでに」を同時に捉え見つめて生きるのです。「敗北」の現実の中に「勝利」を見つめ、「希望の今」を生きるのです。「終わりと滅び」の時の中で、「完成と勝利」の時を生きます。「世の時」の中で、「神の時」を生きます。神さまが完成を実現する日を見つめて、今を生きます。こどもたちは皆、天地と共に喜び祝い喜び踊り、成長の完成を心の目で深く見つめながら、今日一日を生きているように見えるのです。今日のこどもたちの姿が楽しみです。

